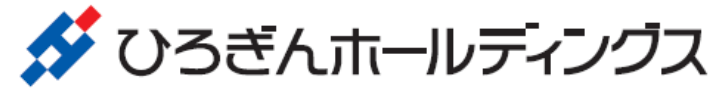


未来を、ひろげる。



広島県内の主要産業の動向（2024年4月）

2024年4月

株式会社ひろぎんホールディングス
経済産業調査部

目次

サマリー	2
1. 自動車	3
2. 自動車部品	4
3. 造船	5
4. 工作機械	6
5. 産業機械	7
6. 電子部品・デバイス	8
7. 鉄鋼	9
8. 大型小売	10
9. 自動車販売	11
10. ホテル	12
11. 建築・土木	13
12. 住宅・マンション	14
13. 陸運	15
14. 海運	16

- 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- 本資料は、信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。

製造業の見通し

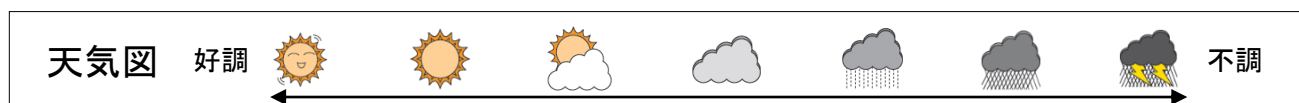
- 自動車は回復の動きが続くが、海外景気の減速等を受けてペースは緩やかなものとどまる見通し
- 機械関連は外需中心に低迷が続くが、電子部品・デバイスは在庫調整一巡を受け需要は上向く

業種	最近	今後	当面の見通し
1 自動車			回復の動きが続くがペースは緩やか
2 自動車部品			生産の回復を受け業績の改善が進む
3 造船			高船価船の竣工等から業績改善が進展
4 工作機械			外需を中心に需要は当面低調
5 産業機械			需要は低調に推移し、生産も低下
6 電子部品・デバイス			在庫調整の一巡等を受け上向く
7 鉄鋼			中国向け需要の低迷等から横這い推移

非製造業の見通し

- 大型小売は飲食料品中心に堅調も、節約志向の高まりによる収益悪化が懸念材料に
- 住宅・マンションは販売価格上昇を受け需要は低調
- ホテルはインバウンド中心に需要好調が続き、建設・土木は底堅く推移

業種	最近	今後	当面の見通し
1 大型小売			節約志向の高まりが懸念材料
2 自動車販売			緩やかな回復が続く
3 ホテル			インバウンド中心に宿泊の好調が続く
4 建築・土木			民間工事・公共工事とも底堅く推移
5 住宅・マンション			価格上昇等を受け需要は低調に推移
6 陸運			荷動きは持ち直すも業績は低迷続く
7 海運			荷動きの伸び悩み等から市況は弱含む



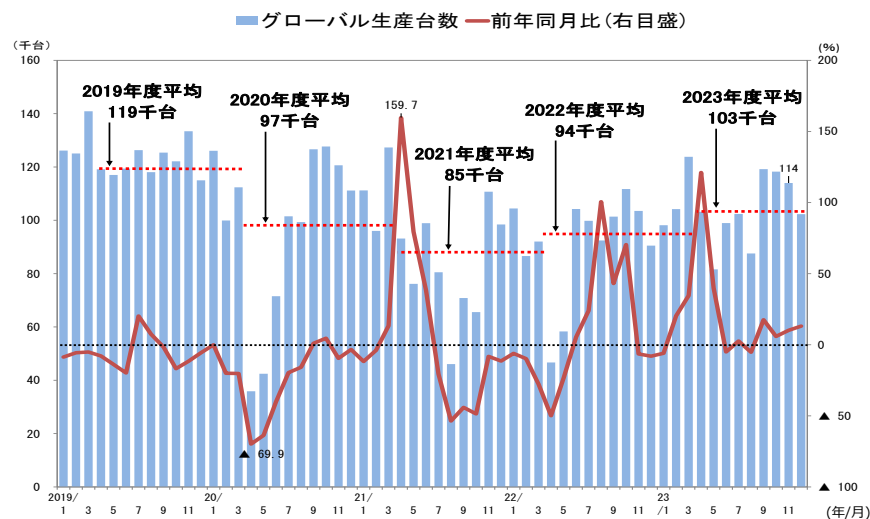
1. 自動車 ～回復の動きが続くがペースは緩やか～

最近の動き



- 2023年10～12月のマツダのグローバル生産台数は111千台/月（前年同期比+9.4%）と、半導体不足などの供給制約の緩和に伴い前年を上回り、コロナ禍前（2019年度：119千台/月）の9割超の水準まで回復した。
- グローバル販売台数（同）も104千台/月（同+11.5%）と、生産面の制約が解消に向かう中で、主力の「CX-5」や2023年上期より米国等に投入された「CX-90」の好調から前年を上回った。
- 業績は、原材料価格や物流費の高騰等が下押し材料となったものの、販売価格ならびに収益性の高いSUVの拡販や円安のプラス効果等から、増収増益となった。

マツダのグローバル生産台数の推移



(資料) マツダ(株)資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

当面の見通し



- **グローバル生産**は、米国アラバマ工場のフル稼働化や北米向け新型SUV「CX-70」の投入（2024年春予定）などから増加し、グローバル販売も**回復の動きが続く**とみられる。
- ただし、米国を中心に海外景気の減速が見込まれるほか、EVシフトが急速に進展する中国やタイ等での販売の伸び悩みも予想され、**回復ペースは緩やかにとどまる見通し**。
- **業績**は、米国など利益率の高い市場での拡販に加えて円安の追い風を受けて**増収増益基調が続く**とみられる。

マツダのグローバル生産・販売台数（月平均）

	グローバル生産			グローバル販売		
	前年同期比	うち国内	前年同期比	前年同期比	前年同期比	
19年度上期	121	▲4.1	84	9.1	122	▲8.2
下期	118	▲12.7	78	▲14.6	115	▲10.0
20年度上期	80	▲34.2	45	▲45.8	96	▲20.9
下期	116	▲2.1	79	1.3	118	3.0
21年度上期	78	▲2.4	52	14.3	110	14.2
下期	93	▲19.6	64	▲19.0	98	26.3
22年度上期	84	8.0	56	8.0	86	▲22.1
下期	105	13.3	71	11.2	99	0.9
23年度上期	99	17.9	67	18.6	103	19.8
下期	111	9.4	72	6.0	104	11.5

(注) 23年度下期は10～12月

(資料) マツダ(株)資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

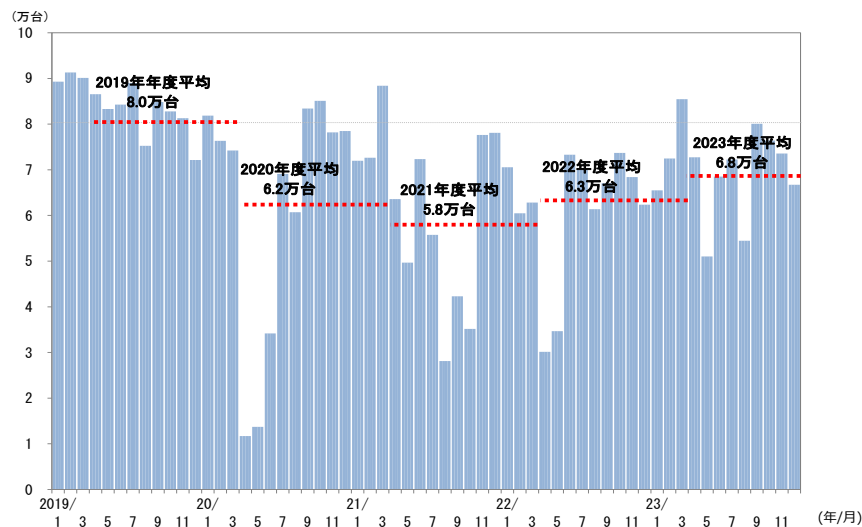
2. 自動車部品 ～生産回復を受け業績の改善が進む～

最近の動き



- 供給制約の緩和により自動車メーカーの生産が上向中、受注・生産ともに緩やかな回復基調が続いた。因みに、2023年10～12月の広島県の自動車部門の鉱工業生産指数は91.3(前年同期比+6.9%)と前年を上回り、自動車関連企業の業況感は上向いた。
- 業績は、エネルギー価格等の高止まりによるコスト負担増はあるものの、受注の回復を受け多くの企業で改善した。

マツダの国内生産台数



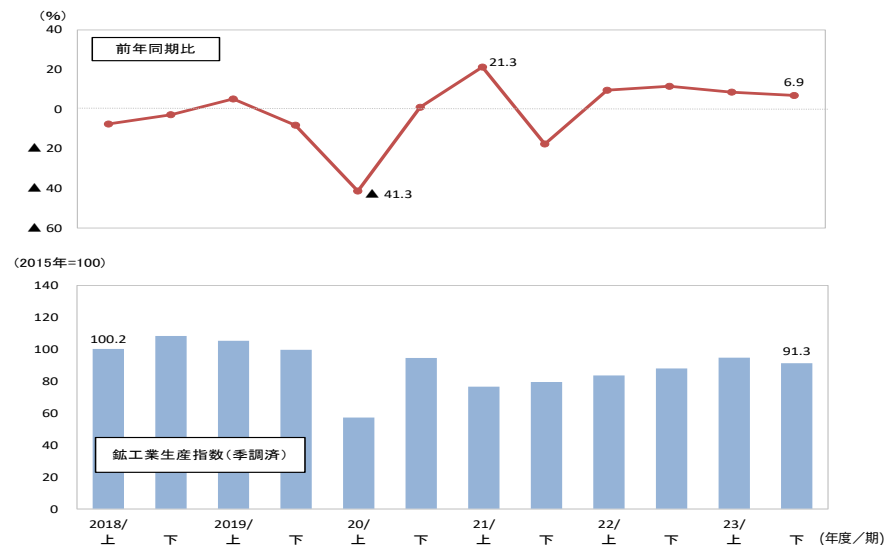
(資料) マツダ(株)資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

当面の見通し



- **受注および生産**は、海外景気の減速等に伴う需要の伸び悩みが予想されるものの、多くの完成車メーカーの生産回復やマツダの新型車投入効果などから、**緩やかながら回復傾向が続く**とみられる。
- **業績**は、エネルギー価格等の高止まりや人件費の上昇が下押し材料となるものの、生産の回復を受けて**改善が進む**見通し。

自動車部門の鉱工業生産指数(広島県)



(注) 23年度下期は10～12月

(資料) 広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

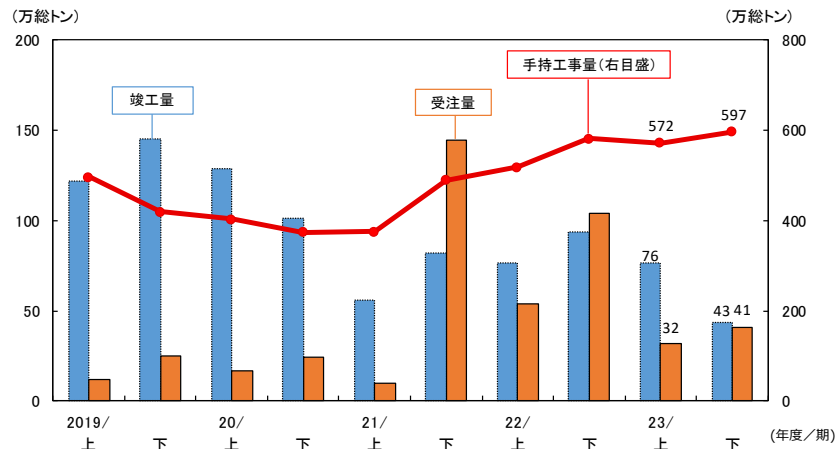
3. 造船 ～高船価船の竣工等から業績改善が進展～

最近の動き



- 県内造船所の受注量(2023年10～12月)は41万総トンで、大手造船所でコンテナ船やバラ積み船の受注があったことから低水準だった前年を上回った。
- 手持工事量(2023年12月:597万総トン)は3.5年分と高水準に達しており、2027年までの建造案件を確保した造船所もみられる。
- 業績は、鋼材価格は高止まりしたものの、コロナ禍以降に受注した高船価船の竣工や為替の円安基調を受けて改善が進んだ。

造船業の受注・竣工・手持工事量 (広島県)



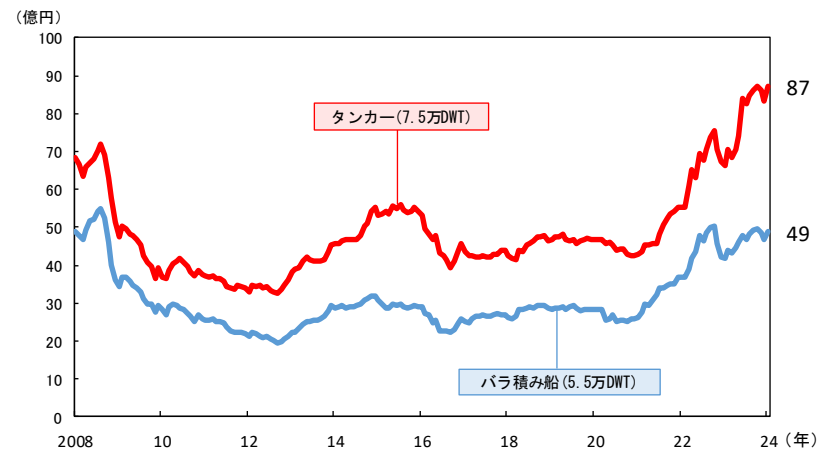
(注1) 23年度下期は10～12月 (注2) 手持工事量は各期末(23年度下期は12月末)
 (資料) 中国運輸局資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

当面の見通し



- 引き合いは、2023年7月に国際海運のCN目標の達成時期が前倒し(今世紀中→2050年頃)されたこともあり、CO₂排出量を低減する次世代燃料船を中心に増加する見込み。
- ただし、高水準の手持工事量や深刻な人手不足、為替の変動リスク等を踏まえて造船業者は案件選別姿勢を強めており、**受注は小幅増にとどまる**公算が大きい。
- **業績は、竣工船の高船価船へのシフト等を背景に引き続き改善が見込まれる。**

新造船価 (受注船価)



(注) 船価(円ベース) = 船価(ドルベース) × ドル円レート(月末値)、直近は24年1月
 (資料) マリンネット資料等よりひろぎんHD経済産業調査部作成

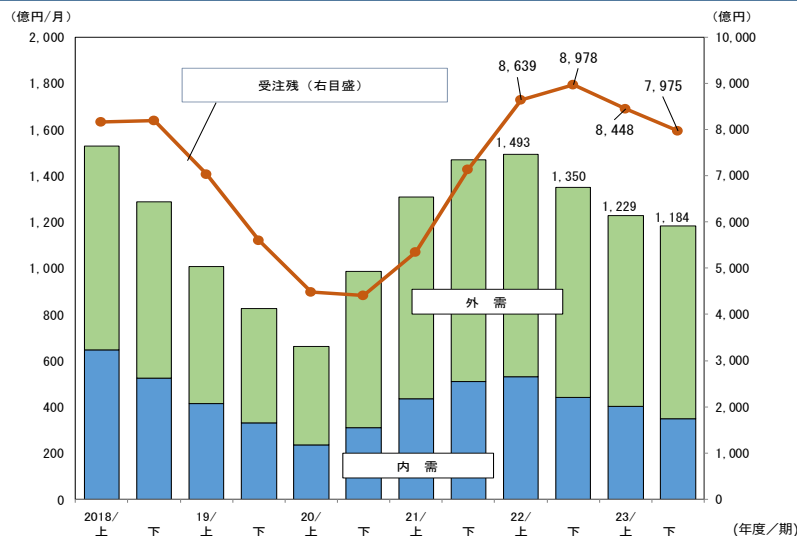
4. 工作機械 ～外需を中心に需要は当面低調～

最近の動き



- 需要は、中国経済の低迷や欧米の金融引き締めに伴う設備投資抑制の動きを受けて、外需を中心に減少した。因みに、2023年10～12月の全国の工作機械メーカーの受注額は1,184億円/月(前年同期比▲12.3%)に減少した。
- こうした需要動向を受けて生産は低調に推移し、全国の生産額は、2023年8月以降前年割れが続いた。
- 業績は、生産の減少により多くの企業で減益基調ながら、単価引き上げが奏功して増益を達成する企業もみられた。

工作機械の受注額（月平均）・受注残（全国）



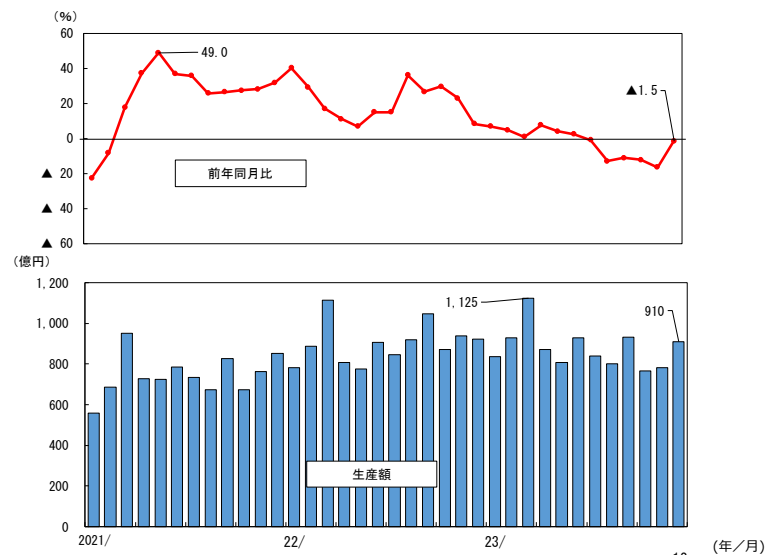
(注1) 23年度下期は10～12月 (注2) 受注残は各期末時点、23年度下期は12月末時点
 (資料) (一社)日本工作機械工業会資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

当面の見通し



- **需要**は、海外景気の減速の中で設備投資抑制の動きが続くとみられ、**外需を中心に低調な推移**が見込まれる。
- ただし、根強い自動化・省力化ニーズやEV関連投資の拡大を背景に、2024年度後半には増加に転じると期待される。
- **生産**は、低調な需要を背景に弱い動きが続くとみられ、業績は**減収減益基調**で推移する見通し。

工作機械の生産額（全国）



(資料) 経済産業省資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

5. 産業機械 ～需要は低調に推移し、生産も低下～

最近の動き



- 需要は、中国景気の低迷や世界的な半導体需要の不振を受けた関連投資の減少により、全体では低調に推移した。
- このため生産は、建設機械や半導体製造装置等の生産用機械、プラント設備等のはん用機械ともに減少し、2023年10～12月の広島県の一般機械の鉱工業生産指数は94.7(前年同期比▲17.7%)と大きく低下した。
- 業績は、生産の減少を受けて総じて弱含んだ。

一般機械の鉱工業生産指数（広島県）



(注) 23年度下期は10～12月

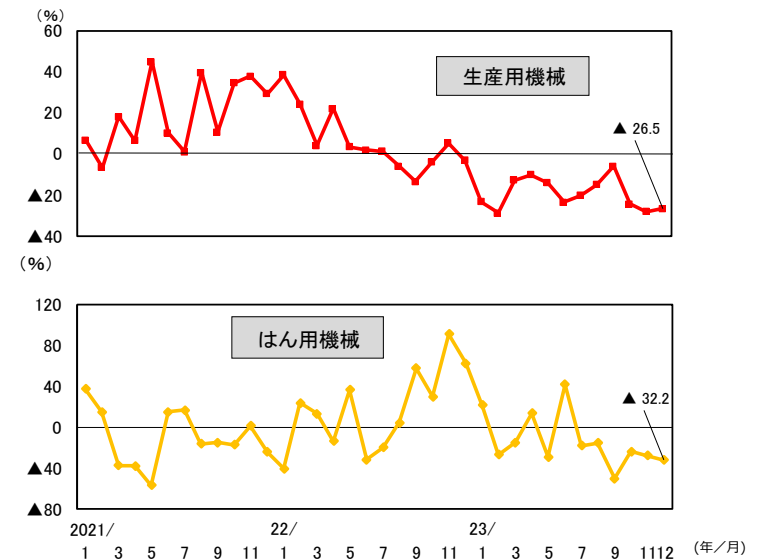
(資料) 広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

当面の見通し



- 需要は、半導体関連投資の回復が期待できる一方で、中国経済の回復の遅れに加えて、比較的堅調であった北米でも金融引き締め等の影響を受けて設備投資が弱含む可能性があり、全体では外需を中心に前年を下回る公算が大きい。
- 生産は当面、こうした需要の減少を受けて低水準が続くとみられる。
- 業績は、生産の減少に加えて原材料やエネルギーコストの高止まりが下押し圧力となり、前年を下回る見通し。

生産用機械・はん用機械の鉱工業生産指数（前年同月比、広島県）



(資料) 広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

6. 電子部品・デバイス ～在庫調整の一巡等を受け上向く～

最近の動き



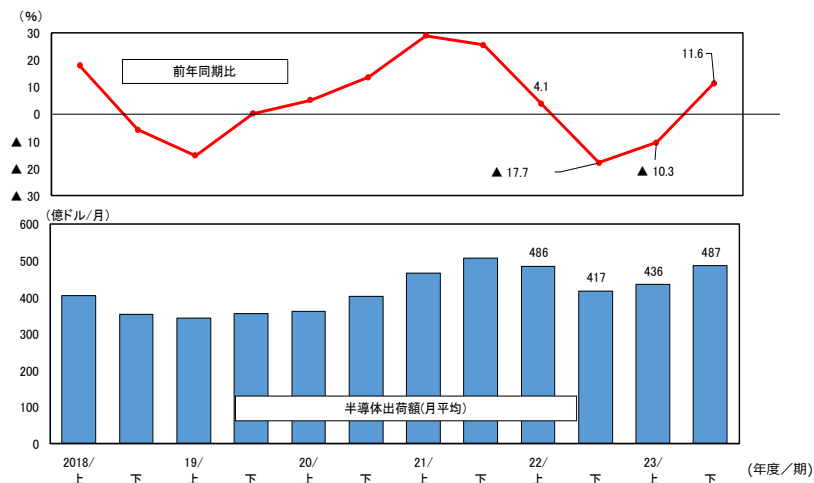
- 需要は、EV・電力向けのパワー半導体などが好調なほか、メモリー半導体も世界的な在庫調整の進展から上向いた。因みに、2023年10～12月の世界の半導体出荷額は前年同期比+11.6%と大幅なプラスに転じた。
- 生産は、半導体需要の回復やパワー半導体など一部製品での生産体制増強を受けて持ち直し、2023年10～12月の広島県の電子部品・デバイス工業の鉱工業生産指数は179.8（前年同期比+10.8%）と前年比2桁のプラスとなった。

当面の見通し



- 需要は、世界的な半導体の在庫調整の一巡に加え、コロナ禍の2020年～21年に販売が拡大したスマートフォンの買い替え需要等も想定されることから、上向きの動きが続くとみられる。
- 生産も、需要の堅調を受けて前年を上回って推移する見通し。
- なお、今後拡大が続くとみられるEVやデータセンター向け需要の取り込みに向けて、県内においてもDRAMやパワー半導体の設備増強計画が打ち出されており、中長期的には大幅な生産規模の拡大が期待される。

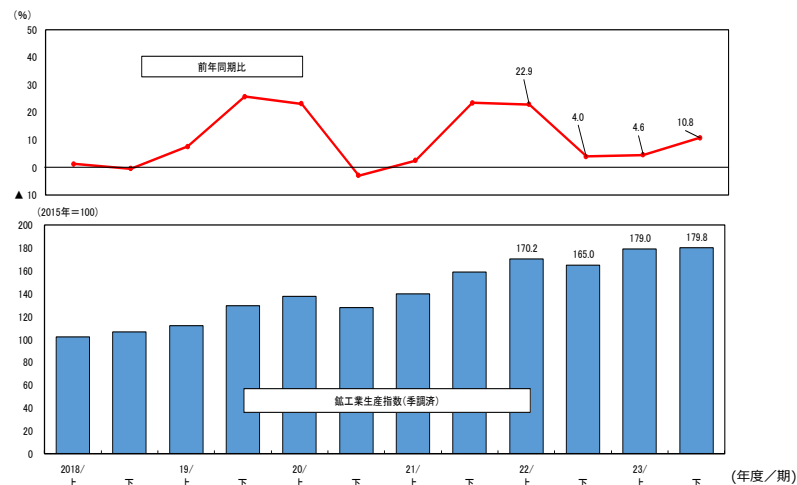
世界の半導体出荷額



(注) 23年度下期は10～12月

(資料) World Semiconductor Trade Statistics資料より当部作成

電子部品・デバイス工業の鉱工業生産指数（広島県）



(注) 23年度下期は10～12月

(資料) 広島県資料より当部作成

7. 鉄鋼 ～中国向け需要の低迷等から横這い推移～

最近の動き



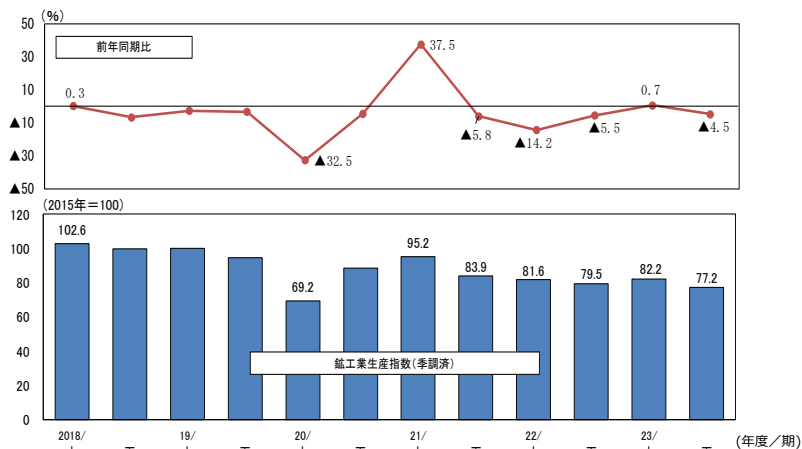
- 需要は、内需が主力の自動車向けを中心に緩やかに回復したものの、外需が中国経済の停滞等を受けて落ち込んだことから、全体では横這いにとどまった。
- 生産は、ほぼ横這い圏内で推移し、2023年10～12月の広島県の鉄鋼業の鉱工業生産指数は77.2(前年同期比▲4.5%)と、前年を下回った。
- 業績は、需要が伸び悩む中、販売価格改善への取り組みを強化することで、利益は前年並みを確保した。

当面の見通し



- 需要は、内需は引き続き主力の自動車向けを中心に緩やかな回復が続くものの、外需は中国での不動産市況低迷の長期化などから回復は見込み難しく、全体では横這い圏内での動きにとどまるとみられる。
- 業績は、引き続き原材料コスト未反映分の価格転嫁に取り組むものの、需要が伸び悩む中で大幅な改善は期待し難く、本格回復には時間を要する見通し。

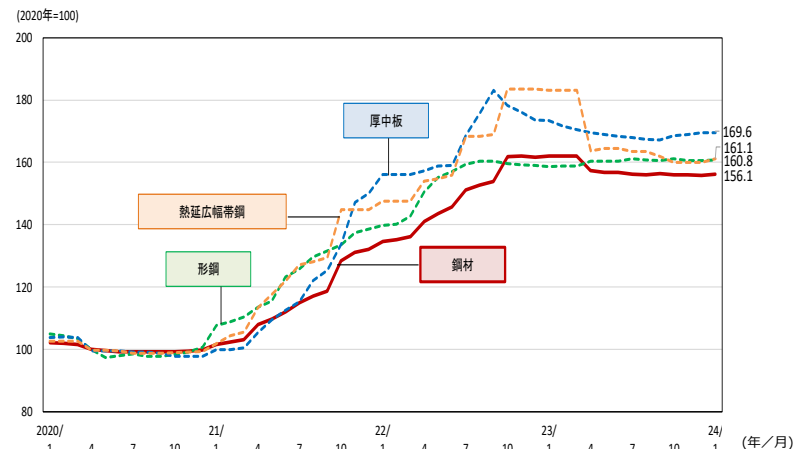
鉄鋼業の鉱工業生産指数（広島県）



(注) 23年度下期は10～12月

(資料) 広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

国内企業物価指数（鉄鋼製品）



(資料) 日本銀行「国内企業物価指数」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

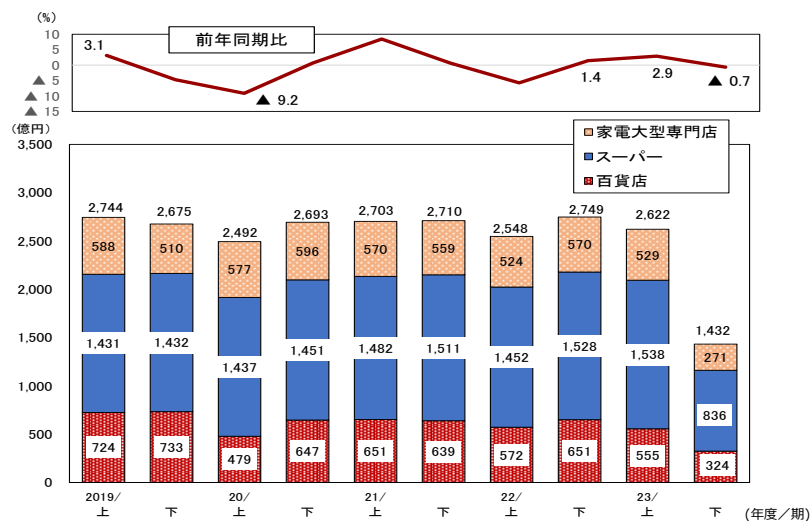
8. 大型小売 ～節約志向の高まりが懸念材料～

最近の動き



- 百貨店販売額(23年10～12月、全店ベース:前年同期比▲9.0%)は、海外ラグジュアリーブランドや美術品・貴金属等が好調に推移したものの、暖冬の影響もあって主力の衣料品が伸び悩み、前年を下回った。
- スーパー販売額(同+4.1%)は、幅広い商品群での単価上昇に天候不順等による青果・水産物の相場上昇が加わって、前年を上回った。
- 家電大型専門店販売額(同▲3.8%)は、エアコン、洗濯機等は堅調に推移したが、パソコン等の低迷が続くなど、前年を下回った。

大型小売店販売額 (広島県)



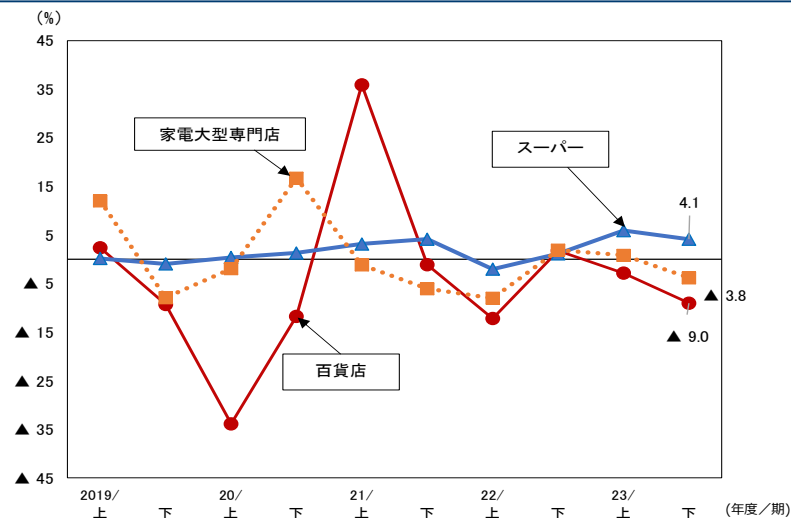
(注1) 全店ベース (注2) 23年度下期は10～12月
 (資料) 経済産業省資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

当面の見通し



- **百貨店**は、化粧品や海外ラグジュアリーブランド、美術品・貴金属等の好調は続くものの、衣料品の低迷に加えて売場縮小の影響から販売額は前年を下回って推移する見通し。
- **スーパー**は、生活必需品である飲食料品を中心に堅調な推移が見込まれるが、物価上昇に伴う消費者の節約志向が強まる中、価格競争の激化による収益性の悪化が懸念される。
- **家電大型専門店**は、高価格帯の冷蔵庫や洗濯機などの白物家電の堅調が見込まれるが、パソコンなどデジタル家電の低迷に加えて消費者の節約志向の強まりが懸念され、全体では伸び悩む見通し。

大型小売店販売額 (広島県、業態別、前年同期比)



(注1) 全店ベース (注2) 23年度下期は10～12月
 (資料) 経済産業省資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

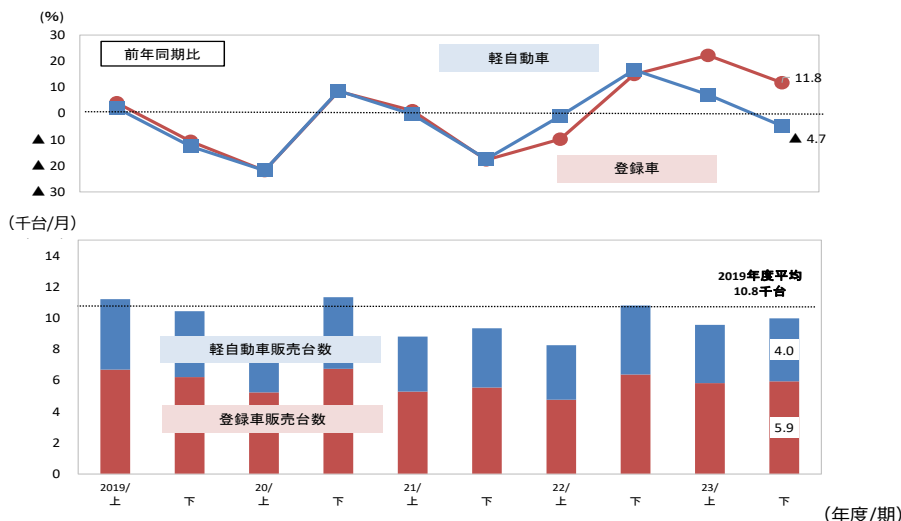
9. 自動車販売 ～緩やかな回復が続く～

最近の動き



- 2023年10～12月の県内の新車販売台数は9.9千台/月(前年同期比+4.5%)と、供給制約の緩和による自動車メーカーの生産回復を背景に、登録車を中心に増加した。
- 中古車販売台数(同)は5.7千台/月(同+2.5%)と、新車販売の回復を受けて上向いた。
- 業績は、人件費やエネルギー価格の高止まりが下押し材料となったものの、新車および中古車の販売回復により堅調に推移した。

新車販売台数 (月平均、広島県)



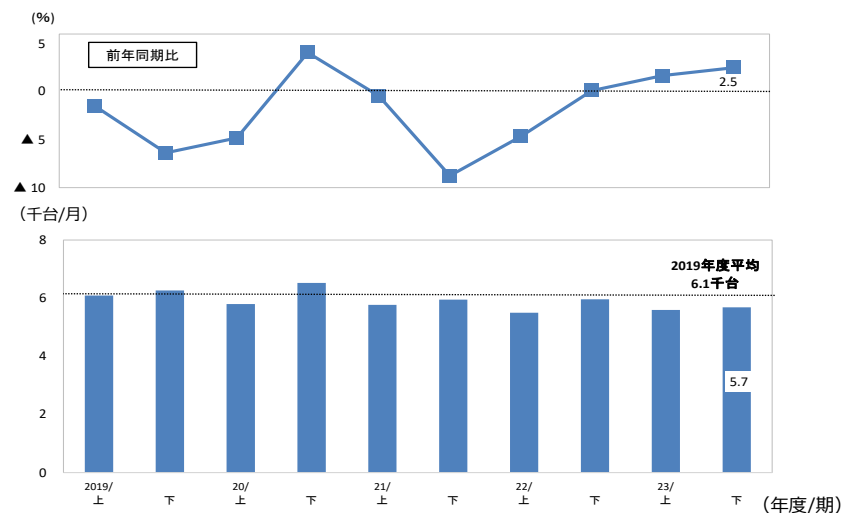
(注) 23年度下期は10～12月
 (資料) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会資料より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

当面の見通し



- **新車販売**は、受注残の消化が進んでいるものの、自動車メーカーの生産が正常化する中で**緩やかな回復が続く見通し**。
- **業績**は、引き続き人件費やエネルギー価格の高止まりが予想されるものの、販売の回復を受けて**底堅く推移する見通し**。

中古車販売台数 (月平均、広島県)



(注) 23年度下期は10～12月
 (資料) 日本自動車販売協会連合会資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

10. ホテル ～インバウンドを中心に宿泊の好調が続く～

最近の動き



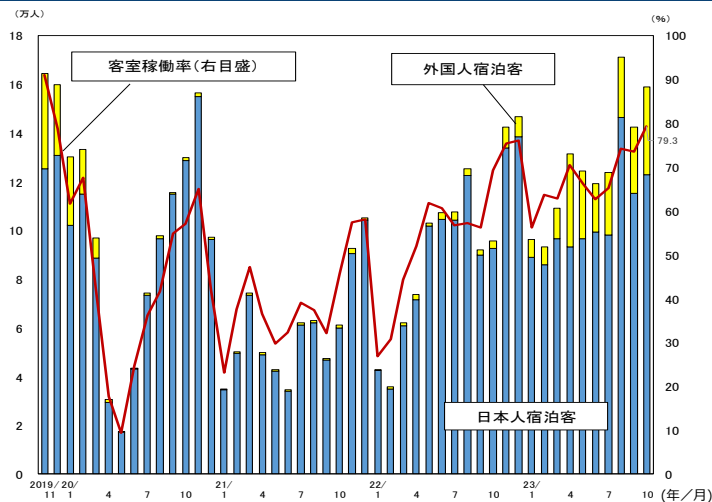
- 宿泊部門は、旅行需要の回復に加えて、G7広島サミットを通じた情報発信の効果等から、インバウンドを中心に宿泊客数が増加。稼働率および客室単価も上昇し、好調に推移した。
- 宴会・婚礼部門は、宴会は飲食を伴う会議や企業のパーティ等で上向いたが、婚礼は小規模な披露宴が主流となる中で低迷した。
- 料飲部門は、原材料価格高騰の中で価格改定により客単価が上昇したほか、宿泊客のレストラン利用が増加したこと等から堅調に推移した。

当面の見通し



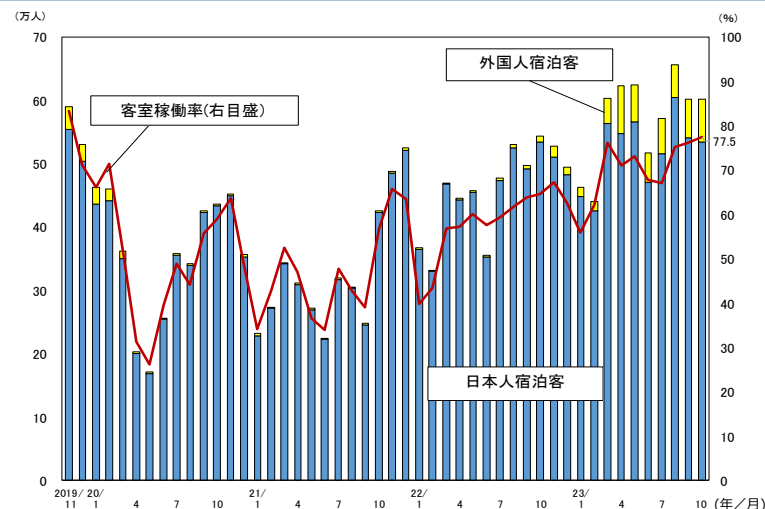
- 宿泊部門は、インバウンドを中心に需要の回復が続くとみられ、稼働率ならびに客室単価の上昇により好調に推移する見込み。
- 宴会・婚礼部門は、宴会は法人需要の回復を受けて持ち直しが続くと思われるが、オンライン開催の普及等を背景に規模の縮小は続く見込みで、婚礼も目に見えた回復は期待し難い。
- 料飲部門は、引き続き宿泊客の利用増加が見込まれるほか、イベント開催等による地元客の誘客強化等もあり、堅調な推移が見込まれる。
- 業績は、水道光熱費の高騰や人手不足に伴う清掃費などの経費の上昇が下押し要因となり、緩やかな回復にとどまる見通し。

シティホテルの客室稼働率・延べ宿泊客数(広島県)



(資料)観光庁「宿泊旅行統計調査」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

ビジネスホテルの客室稼働率・延べ宿泊客数(広島県)



(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

1 1. 建築・土木 ～民間工事・公共工事とも底堅く推移～

最近の動き



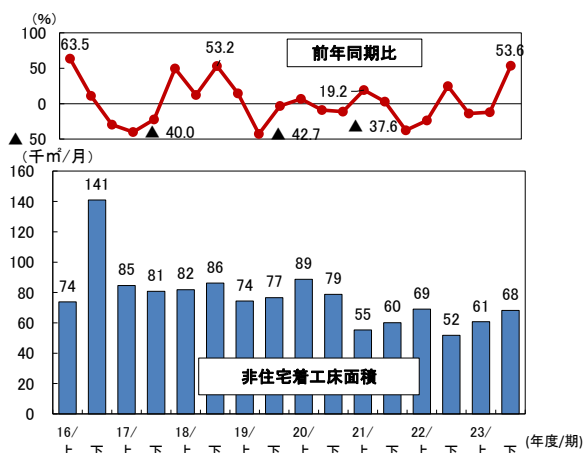
- 2023年10～12月の広島県の非住宅着工床面積は、前年同期比+53.6%と前年を大きく上回った。公共工事請負金額(2023年10月～2024年1月)も同+23.5%と増加し、高い水準が続いた。
- 業績は、建設資材価格の高止まりはあるものの、採算重視の受注姿勢の中で工事価格への転嫁も進んだことから堅調に推移しており、業況感も良好な水準が続いている。

当面の見通し



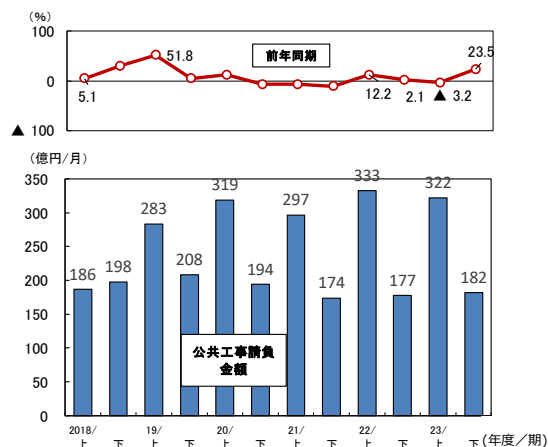
- **民間工事**は、堅調な企業の設備投資意欲を背景に、**公共工事**も、国土強靱化施策に基づく防災・減災対応工事や広島城周辺など広島市内の再開発関連の需要が見込まれることから、総じて**底堅く推移**する見通し。
- 業績は、当面安定的な工事量確保が見込まれることから、**横這い圏内で推移**する見通し。

非住宅着工床面積（広島県・月平均）



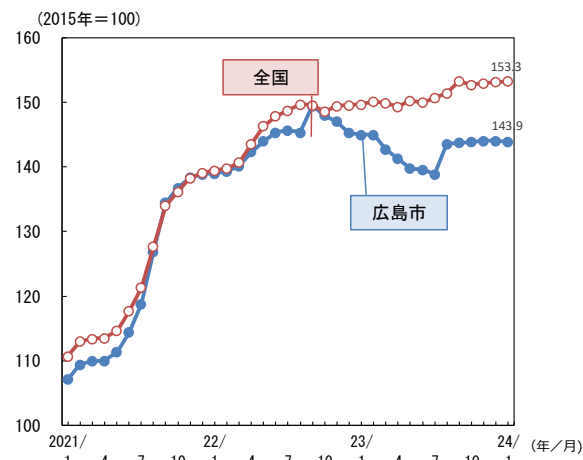
(注) 23年度下期は10～12月
 (資料)国土交通省「建築着工統計」より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

公共工事請負金額（広島県・月平均）



(注) 2023年度下期は10～1月
 (資料) 西日本建設業保証(株)「広島県の公共工事動向」より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

建設資材価格指数



(資料) (一財) 経済調査会「都市別建設資材価格指数」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

【時間外労働上限規制の強化に向けた建設業の対応】

2024年4月からの時間外労働上限規制の適用開始に際し、業界の人手不足の深刻化や従業員の収入減等が懸念されている。県内の建設業では、就業規則への週休2日の明記、残業削減の影響緩和に向けたベースアップ等の取り組みがみられる。

1 2. 住宅・マンション ～価格上昇等を受け需要は低調に推移～

最近の動き



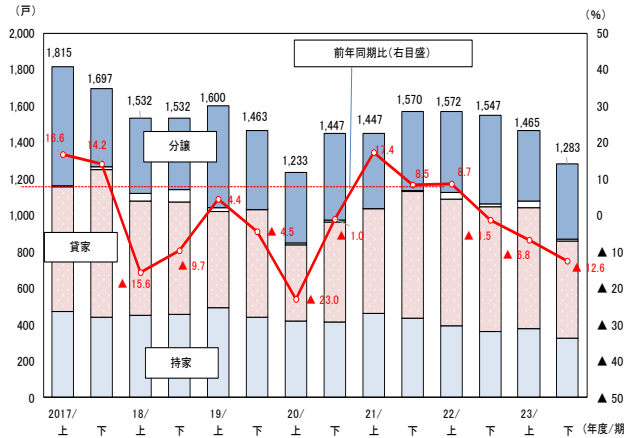
- 新設住宅着工戸数(2023年10～12月:前年同期比▲12.6%)は、建築コストの高騰を受けた住宅価格の上昇を背景に前年を大きく下回った。
- このうち、「分譲」(同+6.3%)はマンション供給の増加から前年を上回ったものの、「貸家」(同▲21.5%)や「持家」(▲16.6%)が前年を下回った。
- 業績は、販売の落ち込みに加え、仕入地価や資材費、労務費等の上昇もあり、前年を下回った。

当面の見通し



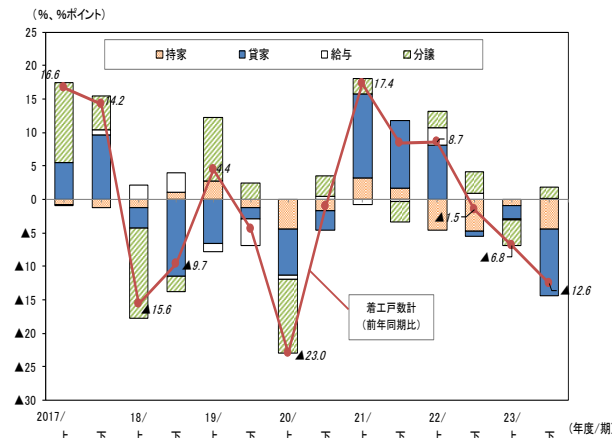
- 需要は、住宅価格が大きく上昇する中で買い控えの動きが当面続くとみられ、**低調に推移**する可能性が高い。
- 業績は、需要の低迷に加えて労務費等のコスト負担の増加が続くとみられ、**さらに弱含む見通し**。
- 参考までに、中国地方のマンション価格は上昇傾向が続き、ここ10年余りで倍以上の水準に達している。

新設住宅着工戸数の推移 (広島県・月平均)



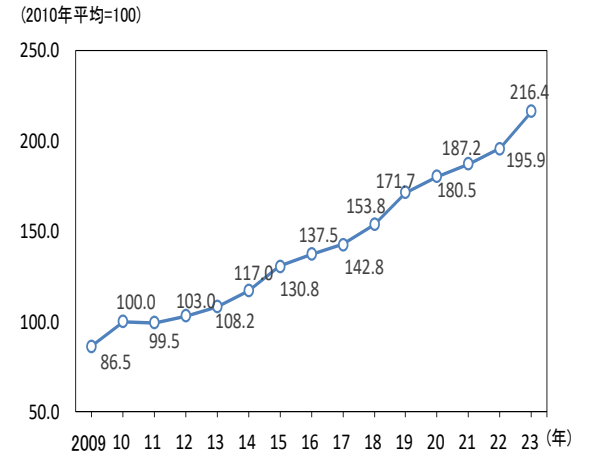
(注) 23年度下期は10～12月
 (資料) 国土交通省「住宅着工統計」より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

新設住宅着工戸数の増減の内訳 (広島県)



(注) 23年度下期は10～12月、種類別の内訳は寄与度
 (資料) 国土交通省「住宅着工統計」より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

中国地方のマンションの価格指数



(注) 23年は1～8月の平均、サンプル数が少ないため参考値
 (資料) 国土交通省「不動産価格指数」より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

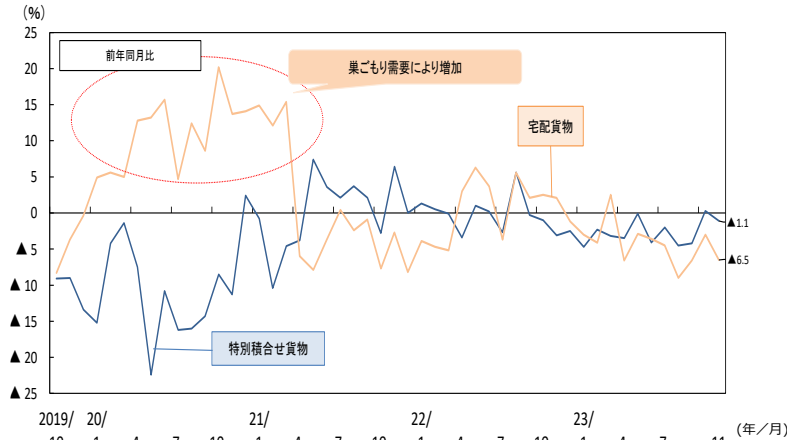
13. 陸運 ～荷動きは持ち直すも業績は低迷続く～

最近の動き



- 荷動きは、自動車などで生産回復の動きがみられたものの、消費者の買い控えなどから小売向けが弱含んだほか、宅配貨物も伸び悩んだことから、全体では前年を下回って推移した。
- 業績は、燃料価格が高止まりする一方で運賃への価格転嫁の動きは広がらず、多くの企業が減益を余儀なくされた。
- 因みに、日銀短観(2023年12月調査)によれば、広島県の運輸・郵便業の業況判断DIは▲23%ポイント(9月調査比▲16%ポイント)と再び悪化した。

貨物輸送量 (中国地方)



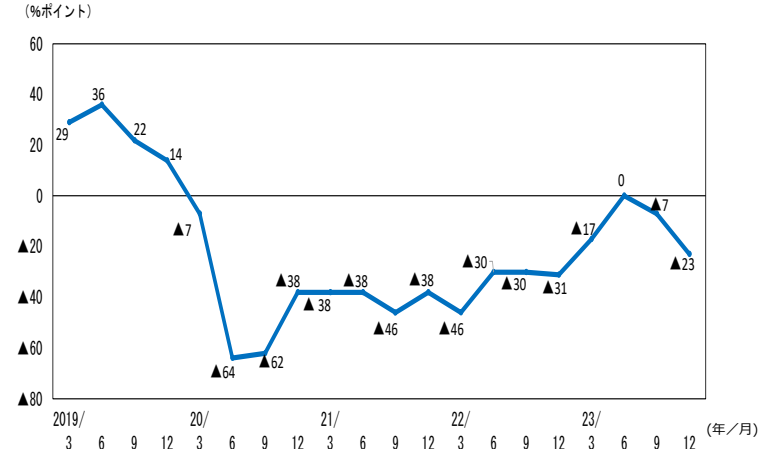
(注) 特別積合せ貨物は主要事業者2社計、宅配便は主要事業
 (資料) 中国運輸局資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

当面の見通し



- 荷動きは、宅配貨物が引き続き高水準を維持する中、自動車メーカー等の生産回復の中で、全体としては**持ち直す**見通し。
- ただし、**業績**は、燃料油価格が高止まりする一方、コスト増加に見合う価格転嫁は容易には進まないものとみられ、多くの企業で**低迷が続く**と予想される。

運輸・郵便業の業況判断DI(広島県)



(資料) 日本銀行広島支店「短観」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

【2024年問題への対応に向けて打ち出された「物流革新緊急パッケージ」】

政府は、「物流の2024年問題」に対する懸念を踏まえ、緊急性の高い施策をまとめた「物流革新緊急パッケージ」を2023年10月に打ち出した。なかでも、①置き配当利用者へのポイント還元、②モーダルシフト促進に向けた目標提示(10年間で約2倍)、③荷待ち時間削減等に向けた「トラックGメン」による荷主等の監視強化等は業界でも大きな注目を集めており、成果が期待される。

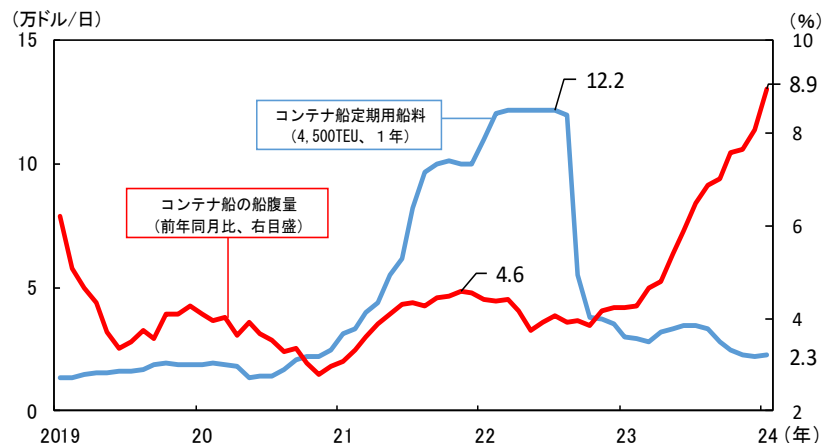
14. 海運 ～荷動きの伸び悩み等から市況は弱含む～

最近の動き



- **用船料**は、コンテナ船は、新造船の大量竣工により供給過剰感が強まったものの、小幅な低下にとどまった。オペレーターがコロナ禍で用船確保が困難となった経験から船隊維持を優先する姿勢を続けたことに加えて、紅海における商船攻撃を回避するための輸送の長距離化が下支えした。
- **バラ積み船**は、ロシア・ウクライナ紛争に伴う石炭・穀物の長距離輸送が常態化する中で、比較的高い水準を維持した。
- **タンカー**は、ロシアへの経済制裁により中東・アメリカ・アジアからの代替調達の動きが活発化していることから高水準が続いた。

コンテナ船の定期用船料、船腹量



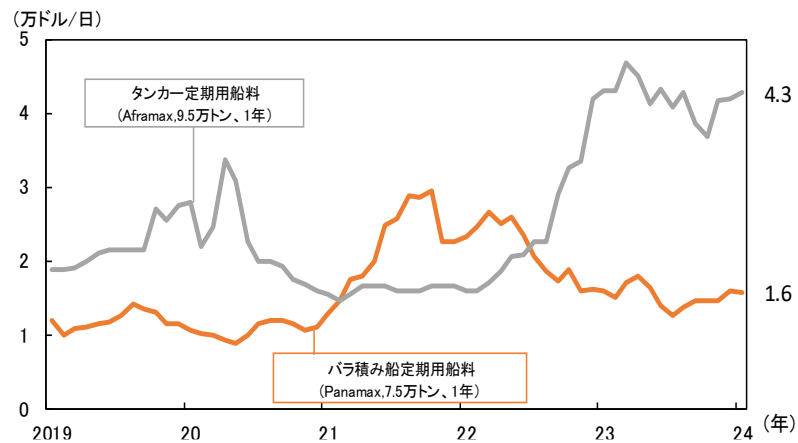
(注) 各年月次ベース、直近は24年1月
 (資料) マリンネット資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

当面の見通し



- **用船料**は、**コンテナ船**は、米国経済の減速や中国の景気回復の遅れなどを背景に荷動きが伸び悩み一方で、大量の新造船竣工により船腹量の拡大が続くことから、**下落に向かう**とみられる。
- **バラ積み船**は、中国の不動産投資の落ち込みを背景に鉄鉱石等の荷動きが弱含むとみられるが、新造船供給が限られることから比較的高い水準を維持する見通し。
- **タンカー**は、ロシア・ウクライナ情勢の長期化により引き続き高水準で推移するとみられるが、世界的な景気の減速を受けて**水準は切り下がる**見込み。

バラ積み船・タンカーの定期用船料



(注) 各年月次ベース、直近は24年1月
 (資料) マリンネット資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成